



高校生ネットワーク

全国フォーラム 第3部 報告

Astro-HS 運営委員会

篠原秀雄（埼玉県立三郷北高等学校）

第3部（天体観測ネットワーク交流会）は、夕食をはさんで7時過ぎから開催された。満腹の後のフォーラムであったが、会場の熱気は衰えることはなかった。

はじめに、地区事務局から各地区の状況についての報告があった。地区事務局を置くようになったのは、このプロジェクトの2年目、1999年からであった。中央一括方式より、地



図1 ポスターセッションで研究者に説明する高校生。(撮影：松本直記)



図2 しし座流星群のビデオ解析に挑戦する高校生。(撮影：松本直記)

元に密着した活動ができるであろう、との狙いからであった。各地区からの報告を聞いていると、その成果が現れていると感じた。もちろん、そこには事務局担当の苦労があるのは言うまでもない。今後も、オリエンテーションや広報・普及など、地区事務局の役割は、ますます重要になっていくのではないだろうか。

続いて、参加者のポスター発表に関する1分間プレゼンテーションがあった。個々の発表時間がわずか1分間ということであったが、ポスター製作の苦労などがうかがえた。

引き続きポスターセッションとなった。会場のホテルの廊下が回廊になっていて、その両側の壁に、ずらっとポスターが掲示された。せまい通路に人があふれ、あちらこちらで活発な議論と交流が行われた(図1)。高校生どうしの交流だけではなく、一線の研究者と高校生が話し合う場面も見られた。フォーラムの会場となった部屋では、流星群のビデオ解析講座が開かれて、高校生が真剣な眼差しで聞いていた(図2)。

このような機会はそうあるものではない。参加した高校生たちがもっとも生き生きと活動した時間だったかも知れない。座って発表を聞くという時間が昼からずっと続いていたので、その間にたまったエネルギーがいっき

に解放されたような感もあった。閉館の時間になっても、あちらこちらでできた交流・議論の輪はなかなか崩れなかった。

はじめての全国フォーラムであったが、参加者にもスタッフにも大きな財産を残してくれたのではないだろうか。

これまで参加者は、マニュアルのような紙やインターネットのようなデジタルデータといったものを媒介として結びついてきたが、今回の全国フォーラムで実際に顔をあわせることができた。これはとても重要な意義をもつ。これからは、マニュアルが来てもアーカイブを見ても「どこかの誰かがやった」ものではなく、「あのときの彼らがやった」こととして受け取れる。今回の全国フォーラムによって、このネットワークがより強固な基盤を築くことができたと考えている。